

令和5年度

「脱炭素社会の実現」に関するアンケート結果

令和6年2月

岐阜県地球温暖化防止活動推進センター

## 「脱炭素社会の実現」に関するアンケート

### 1. 目的

県内企業の「脱炭素社会の実現」に向けての取り組み状況を把握することで、今後の事業者向けの啓発活動の参考にすることを目的とする。

### 2. アンケート項目（別紙参照）

- (1) 脱炭素社会の実現に向けての取り組み内容
- (2) 脱炭素経営によって期待されるメリット
- (3) 脱炭素化に向けた取り組みを開始する上での課題
- (4) デコ活の認知度

### 3. アンケート実施期間

令和6年1月～2月上旬

### 4. アンケート発送と回収数

母団体の取引先企業 400 社にアンケートを送信し、38 社（回収率 9.5%）から回答を得た。なお、今年度はアンケートの実施方法を Web に変更したため、回答数が非常に少なかった。

| 年度    | 送付数(社) | 回答数(社) | 回収率(%) | アンケート方法 |
|-------|--------|--------|--------|---------|
| 令和5年度 | 400    | 38     | 9.5    | Web     |
| 令和4年度 | 160    | 74     | 46.3   | 郵送      |

## 5. アンケート結果

### (1) 脱炭素社会の実現に向けての取り組み内容

岐阜県の企業の「脱炭素社会の実現」に向けての取り組み状況を図1に示す。

取り組みの多いものは「省エネ（節電や節水、空調設定温度の適正化等）」（65.8%）が最も高く、次いで、「クールビズ・ウォームビズの実施」（39.5%）、「廃棄物の抑制」（36.8%）、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）の強化」（34.2%）と続いている。

令和3年度から令和5年度の3年間の変化を図2に示す。取り組みの多いものは、概ね変化はないが、特徴として令和5年度に「環境に配慮した設備や原材料の選定、導入」が31.6%と昨年から大きく増加したことが挙げられる。「廃棄物の抑制」及び「3Rの強化」と廃棄物を減らす取り組みに加え、環境に配慮した製品や原材料を入手すると言った、購入時の配慮にも目が向けられるようになったことがうかがえる（図2）。

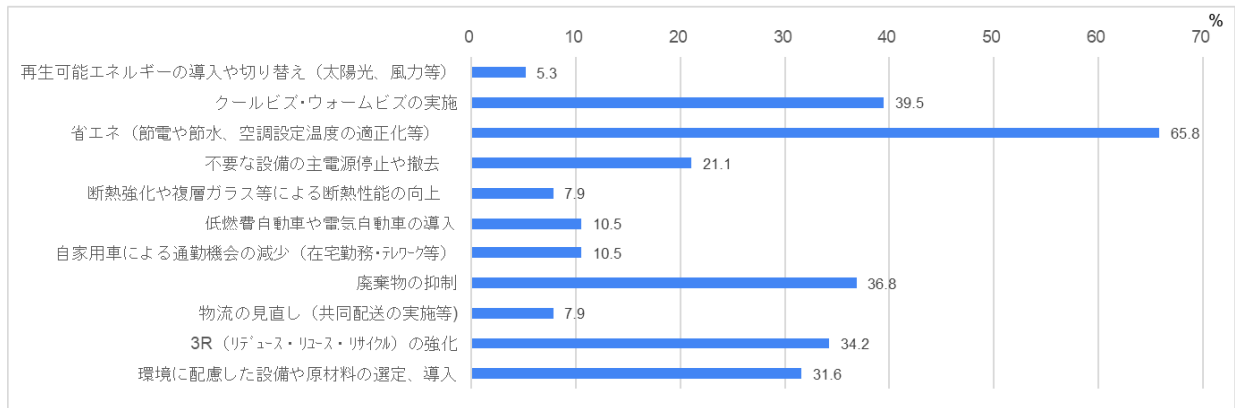


図1 脱炭素社会の実現に向けての取り組み内容

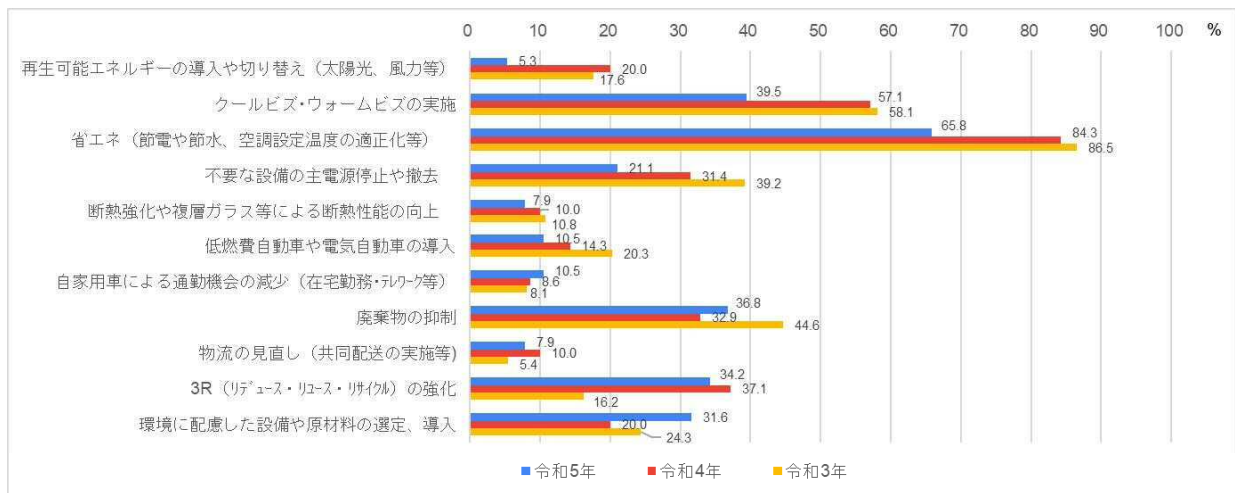


図2 経年比較（脱炭素社会の実現に向けての取り組み内容）

## (2) 脱炭素経営によって期待されるメリット

脱炭素経営によって期待されるメリットについては「光熱費・燃料費の低減」をあげた企業の割合が71.1%と最も高く、次いで、「知名度や認知度の向上」(36.8%)、「優位性の構築（自社の競争力の強化、売上受注の拡大）」(28.9%)をあげている（図3）。

過去3年間を比較すると、さらにこれまで以上に「知名度や認知度の向上」が増えたこと、「資金調達に有利に働く」と言った対外的なメリットが増加していることが特徴である（図4）。

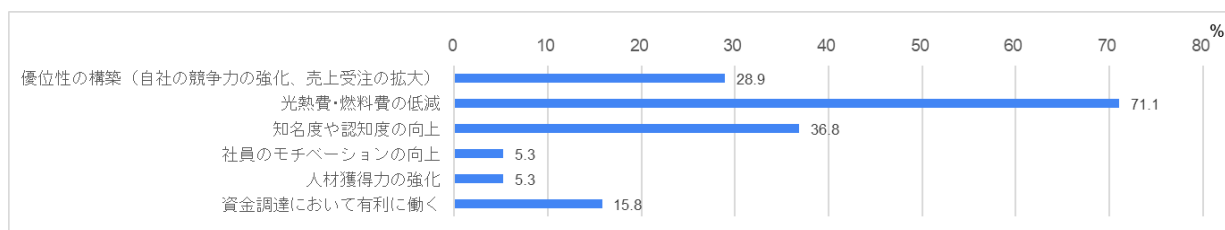


図3 脱炭素経営によって期待されるメリット

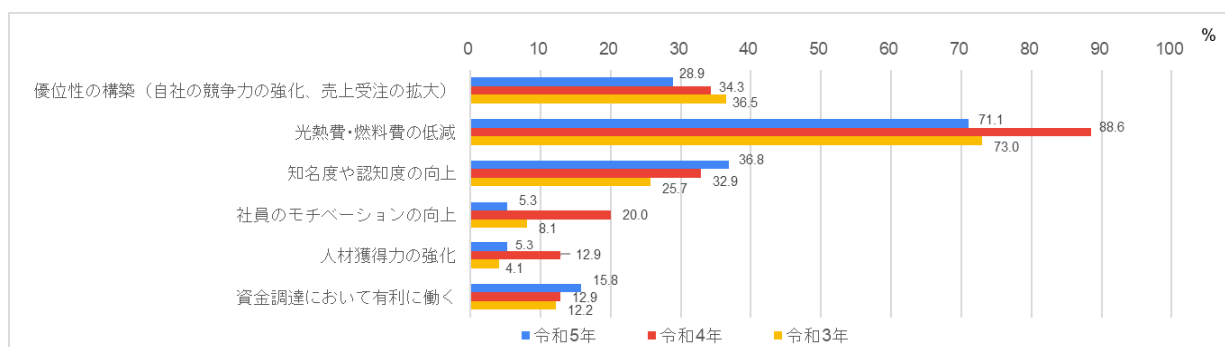


図4 経年変化（脱炭素経営によって期待されるメリット）

### (3) 脱炭素化に向けた取り組みを開始する上での課題

脱炭素化に向けた取り組みを開始する上での課題を図5に示す。

課題は、「投資、コスト増への対応が困難」が55.3%と最も高く、次いで、「どのレベルまで対応が必要かわからない」が42.1%、「必要なノウハウ、人材が不足」が36.8%であった。

昨年と比較すると、コスト面での課題はほぼ横ばいであったが、「どのレベルまで対応が必要かわからない」が1.7倍になり、具体的に取り組みを開始しようとしている企業が多くなったことがうかがえる(図6)。

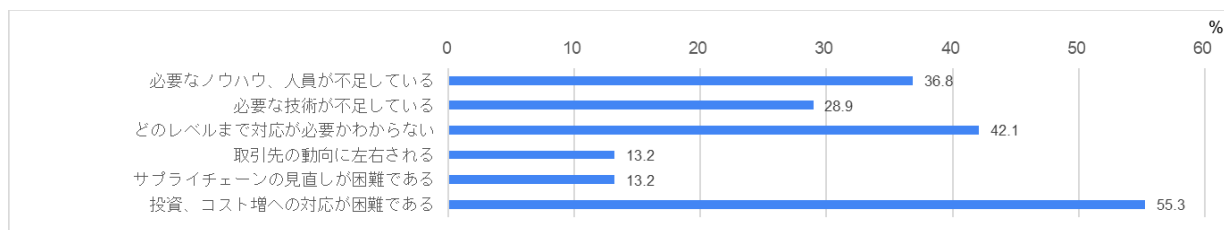


図5 脱炭素化に向けた取り組みを開始する上での課題

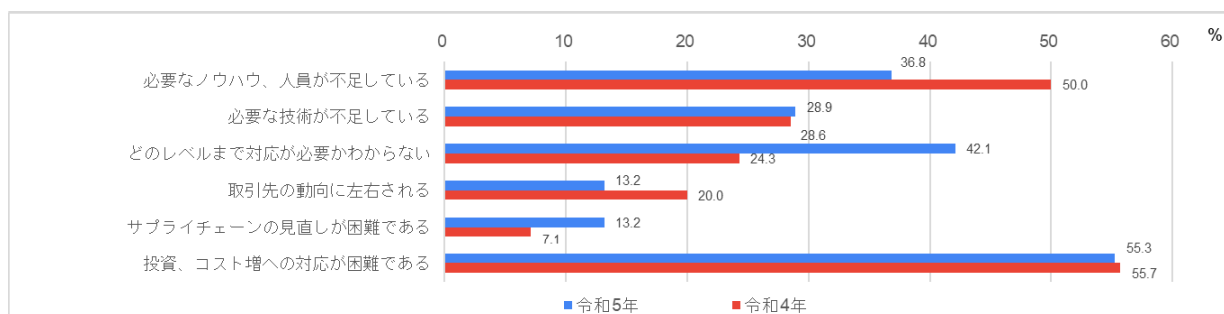


図6 昨年との比較 (脱炭素化に向けた取り組みを開始する上での課題)

#### (4) デコ活の認知度

新しい国民運動「デコ活」の認知度を図7に示す。

「内容まで詳しく知っている」及び「おおよそ知っている」を合わせて約5%で、反対に「知らない」が74.4%と新しい国民運動の認知度の低さを実感した。

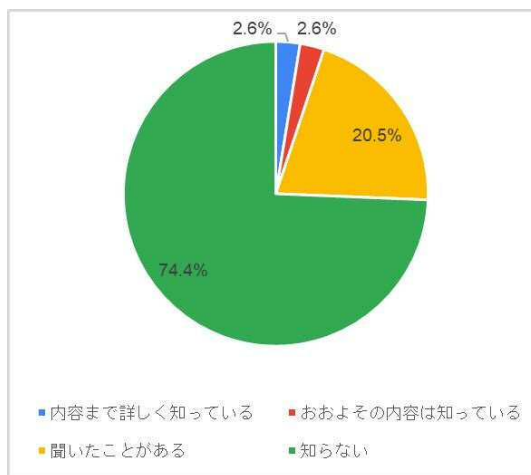


図7 デコ活の認知度

#### 6. まとめ

今年度のアンケートによると、回答があった全ての企業が、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいることが分かった。その取り組み内容は、節電・節水など省エネやクールビズ・ウォームビズなどの身近な事柄からの取り組みが多いことは変わらないが、「廃棄物の抑制」、「3Rの強化」など廃棄物を減らす取り組みに加え、「環境に配慮した製品や原材料を入手する」と言った、購入時の配慮にも目が向けられるようになったことがうかがえる。

脱炭素経営によって期待されるメリットについては、「光熱費・燃料費の低減」、「知名度や認知度の向上」、「優位性の構築（自社の競争力の強化、売上受注の拡大）」をあげる企業が多く、昨年と同様の傾向であったが、過去3年間を比較すると、「資金調達に有利に働く」が増加しており、対外的なメリットへの期待度が上がっていることがうかがえる。

脱炭素の取り組みの課題は、「投資、コスト増への対応が困難」、「どのレベルまで対応が必要かわからない」、「必要なノウハウ、人材が不足」を挙げる企業が多かった。特徴としては、昨年と比較して「どのレベルまで対応が必要かわからない」が1.7倍になり、具体的に取り組みを開始しようとしている企業が多くなったことがうかがえる。

新しい国民運動「デコ活」の認知度は、「知らない」が74.4%で、認知度の低さを実感した。

今後の普及啓発として、企業の求める具体的な対策や支援策を提供することに重きを置くとともに、「デコ活」に認知度向上に注力する必要がある。

また、Webによるアンケートに変更したことにより、回収率が少なかった。次年度は回収率をあげる工夫の検討が必要と考える。



## 「脱炭素社会の実現」に関するアンケート



このアンケートは、(一財)岐阜県公衆衛生検査センター（公衛検）内に設置されている「岐阜県地球温暖化防止活動推進センター」が実施するものです。ご多忙の折、大変申し訳ありませんが、併せて、こちらのアンケートにもご協力いただけますようお願いいたします。

Q1. 貴社は脱炭素社会の実現に向けて、どのようなことに取り組んでいますか（複数回答可）。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 省エネ（節電や節水、空調設定温度の適正化等）      | <input type="checkbox"/> クールビズ・ウォームビズの実施         |
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した設備や原材料の選定、導入         | <input type="checkbox"/> 不要な設備の主電源停止や撤去          |
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーの導入や切り替え（太陽光、風力等）  | <input type="checkbox"/> 廃棄物の抑制                  |
| <input type="checkbox"/> 自家用車による通勤機会の減少（在宅勤務・テレワーク等） | <input type="checkbox"/> 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の強化 |
| <input type="checkbox"/> 断熱強化や複層ガラス等による断熱性能の向上       | <input type="checkbox"/> 低燃費自動車や電気自動車の導入         |
| <input type="checkbox"/> 物流の見直し（共同配送の実施等）            | <input type="checkbox"/> 環境に配慮した商品やサービスの開発       |
| <input type="checkbox"/> 自然保護活動への貢献（活動参加や団体への寄付等）    |  |
| <input type="checkbox"/> その他（                        | ）  |

Q2. 脱炭素経営によって期待されるメリットのうち、ご存じのものをお選びください（複数回答可）。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 優位性の構築（自社の競争力の強化、売上受注の拡大） | <input type="checkbox"/> 光熱費・燃料費の低減    |
| <input type="checkbox"/> 知名度や認知度の向上                | <input type="checkbox"/> 社員のモチベーションの向上 |
| <input type="checkbox"/> 人材獲得力の強化                  | <input type="checkbox"/> 資金調達において有利に働く |
| <input type="checkbox"/> その他（                      | ）                                      |

Q3. 脱炭素化に向けた取り組みを開始する上での課題は何ですか（複数回答可）。

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 必要なノウハウ、人員が不足している  | <input type="checkbox"/> 必要な技術が不足している      |
| <input type="checkbox"/> どのレベルまで対応が必要かわからない | <input type="checkbox"/> 取引先の動向に左右される      |
| <input type="checkbox"/> サプライチェーンの見直しが困難である | <input type="checkbox"/> 投資、コスト増への対応が困難である |
| <input type="checkbox"/> その他（               | ）  |

Q4. 新しい国民運動「デコ活」をご存知ですか。

- 内容まで詳しく知っている  
 おおよその内容は知っている  
 聞いたことがある  
 知らない

